



飛鶴の森から

発行日
2013年12月27日 第82号

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

自然再生・生物多様性の保全

12月12日(木)、釧路市交流プラザさ
いわいで、各委員及び関係行政機関等が参
加して、釧路湿原自然再生協議会 第13
回 森林再生小委員会が開催されました。

この小委員会は、森林の再生に関する計
画とその実施状況、モニタリング調査の結
果等を検討するもので、当ふれあいセンタ
ーが実施している「雷別地区自然再生事
業」と釧路自然環境事務所の「釧路湿原達
古武地域自然再生事業」について、実施状
況等を説明するとともに、意見交換が行われ
ました。

参加者からは、「来年
度は、現地を見なが
ら、議論をした方が良
いのではないか。」等の
意見が出されました。



▽ 委員会の様子

国有林モニター募集

北海道森林管理局では、国民の皆様が国
有林の役割や現状について、「ご理解いた
く」とともに、国有林野の管理経営に国民の
皆様の声を反映させていくことを目的とし
て、平成26・27年度の国有林モニター
を募集しています。

*お問い合わせ先

林野庁 北海道森林管理局

企画課

福浦・安藤

(電話) 0111の6222の5228

(FAX) 0111の6222の5194

(E-Mail) h_kikaku@rinya.maff.go.jp

*北海道森林管理局国有林モニター

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido>

[/app/ly/publicsale/tyousei/monitor.html](http://publicsale/tyousei/monitor.html)

2014年のカレンダーができました

当ふれあいセンターでは、より多くの方々に「国有林」や「釧路地方の自然」を知っていただくため、2014年版のカレンダーを作成しました。このカレンダーは、別寒辺牛(べかんべうし)湿原の上流に位置する「パイロットフォレスト」や「雷別自然再生事業地」などの国有林と釧路地方を代表する風景・植物を題材としたもので、四季折々の息吹やメッセージを感じていただくと幸いです。

これらは、当ふれあいセンターのホームページから、PDFファイルをダウンロードすることができます。アドレスは、次のとおりです。是非、ご覧下さい。

http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/calendar/2014/calender.html

釧路の四季カレンダー

STOP! 外来生物

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12

日	月	火	水	木	金	土
28	27	26	25	24	23	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	1
2	3	4	5	6	7	8

2014年
四季
釧路の四季
カレンダー

10月 (10月)

8月 (8月)

4月 (4月)

2014年・平成26年
STOP! 外来生物

12月 (12月)

8月 (8月)

6月 (6月)

2月 (2月)

第1回 釧路その1

本日は休日を利用して、市内の散策に出かけました。

かねてから思っていました。例えば北海道の比較的大きな都市を訪れると、街路樹に結構国内外の外来種が使われているのですが、ここ釧路の街の街路樹は、ほとんど外来種は見当たらず、在来種で構成されています。街路樹は、夏になると葉が被い茂って、信号が見えにくくなるとか、晩秋になると落ち葉が庭に舞い込んで迷惑とか、確かにそつかもありませんが、街路樹はその街を特徴づける大事なパーツだと思います。それが、在来種で構成されていることは、街の雰囲気や街路らしく見せているということに、つながっていると思えます。なお、本稿では、便宜上、本来釧路地方に生育していた種を在来種、釧路地方に生育してはなかった国内の種を国内外呼ぶことと致します。例えば、仮に釧路地方にブナやトチノキが生えていたら、それは国内外来種ということとします。



▽「出世坂」の急な階段



▽ 階段上部から



▽「出世坂」のヤチダモ（在来種）

本日の散策の起点は、幣舞橋（ぬさまいばし）の南にあるロータリーにしました。南西に「南大通り」、やや南に「富士見坂」、そして東南に「出世坂」があります。まず、「出世坂」の階段を上ることとしました。階段横に書かれた「出世坂の由来」によりまずと、この坂は「支庁裏の坂」、「地獄坂」、「おサヨの坂」と次々と名称が変わり、「大正2年、釧路中学校の開校とともに、向学心に燃える若者達の通り道となり、その青雲の志をたたえ、活躍を期待して、誰いことなくこの坂を「出世坂」と呼ぶようになつた」とのことです。次に「南大通り」を進むことにしました。この街路樹はナナカマド（在来種）で統一されているようです。「北海道殖産状況報文釧路國」（明治33年 北海道殖産民部殖産課）に添付の「釧路土図」を見ると、釧路川南側に市街地が僅かに形成されているのが分かります。幣舞町、真砂町、浦見町の表記が見られ、この地域から街が形成され始めたことが分かります。現在の知人町（しりとちよ）の先の岬は「シレスト」と記され、釧路川北側は単に「トンケシ」と書かれています。ちなみに現在は、



▽「南大通り」のナナカマド



▽ ナナカマドの葉



▽「入舟臨海通り」のヤチダモ



▽ ヤチダモの葉

直接太平洋に注いでいる阿寒川は、蛇行して釧路川につながっていたようです。

かつての繁栄が信じられない位に、商店はシャッターを下ろし、あちこちが空き地や住宅地に変わってしまった「南大通り」を途中から右折して「港町方向へ進み、「入舟臨海通り」を覗くことにしました。こちらも寂れた様子で空き地が目立ちます。この街路樹はヤチダモ（在来種）のようです。

続いて、知人から急な歩道を上り、米町に出ました。釧路燈台の先から石炭の貯炭場が良く見えます。前出の「北海道殖産報文釧路國」を見るのと「春鳥沼」の西岸の「チプオヤニ」というところから、真砂町までの鉄道路線の記号が記載されています。現在の釧路臨港鉄道は、知人町の貯炭場で終点ですが、最も長かった頃は、入舟町から春採湖の東岸に沿って進み、東釧路で国鉄と合流し、城山まで伸びていました。

この「びらり」探訪は、釧路湿原森林ふれあい推進センターのホームページに掲載している「写真ビッグアップ」の2015年8月11日版を再編集して掲載しています。アドレスは、次のとおりです。是非、「ご覧下さい」。
http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index



釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町 6 番 11

【IP】 050-3160-5787 【TEL】 0154-44-0533 【FAX】 0154-41-7305

【E-mail】 h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】 http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html